

令和4年度
事業計画

学校法人 愛知医科大学

令和4年度事業計画

令和4年3月22日

I はじめに

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから、令和4年1月15日で2年が経過しました。第1波の時の全国の一当たりの新規陽性者数は、令和2年4月11日にピークの720人となり、愛知県では感染症の拡大を防ぐため4月16日から初めて緊急事態宣言が発令される事態となりました。令和2年度は本学として新型コロナウイルスと戦うべく入院病床を39床確保するとともに、ECMOなどの医療機器の整備を図り、PCRの検査に係る機器も取り揃え、併せて行政検査も受託するなど医療提供体制を整備し、また会議や授業をリモートで行い感染防止に努めるなど学内各所で新たな対応に忙殺された一年でした。

続く令和3年度も残念ながら流行が止まらず、愛知県では令和3年4月20日からまん延防止等重点措置が講じられることとなりました。第4波が日本列島を襲う中、令和3年4月に開院したばかりの愛知医科大学メディカルセンターでは直ちに愛知県が開設する大規模接種会場として積極的に新型コロナウイルスワクチンの接種に協力するとともに、不足するコロナ患者用の入院病床をさらに拡大するなどの取り組みを推し進めたところです。感染力の強いオミクロン株の出現で、第6波となった令和4年2月11日には一日当たりの新規陽性者数がついに全国で10万人を突破するまでとなり、本学もコロナ病床に40人近い患者が入院する事態となってしまうしました。

未曾有の困難が続く中、愛知医科大学病院の理念である「社会の信頼に応えうる医療機関」として責務を全うすべく、本学を構成する職員、学生各自がそれぞれの責任をしっかりと果たし、不断の努力をし続けこの難局に立ち向かうことで、一部病床の入院制限はあったものの医療崩壊を起こさず通常の診療活動も止めることなく、安定した運営を続けてきており、令和3年度の医療収入は大きな影響を受けることなく確保できています。

長引くコロナ禍の影響、エネルギー価格の高騰や世界情勢の混乱など明るい材料に乏しい今後の見通しですが、それでも新型コロナウイルス対策については、ワクチン接種が広がり、そして飲み薬の開発が実現間近となりつつあり、出口への希望の光が見えてきました。

こうした状況の下で本学の令和4年度予算は、教育・研究・診療を続けることを基本に、大きな事業としては愛知医科大学中期計画（令和元年度～令和5年度）の実行、開院2年目となる愛知医科大学メディカルセンターの更なる拡充、メニコン社との産学連携寄附講座（近視進行抑制）の設置と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点としてメディカルクリニックでのアイセンター（仮称）の設置を行うなど、喫緊の課題と将来への発展に着実に取り組むための予算として編成しました。

そして今年は二つの大きな節目の年に当たります。まず、平成14年1月から愛知医科大学病院を基地病院として、全国で4番目のドクターヘリ事業が開始されてから20年になります。さ

らに愛知医科大学創立50周年を迎える年であります。先人のこれまでの努力に感謝し、11月3日の開学記念日を中心に、本学の今後の発展に向けた10の取り組みを創立50周年記念事業として推進します。こうした記念すべき年にふさわしく、感染症をはじめ今後の動向を慎重に見通しながら、丁寧かつ迅速しかも果敢な財政運営を進めてまいります。

学是「具眼考究」

医療においては、超高齢社会や人口減少に伴い、日本の医療そのものが大きく様変わりをしていること、教育においては、グローバル化の流れを受けた医科系大学の教育が大きな転換期を迎えたこと等から、職員・学生にとって、新しい時代に即した「建学の精神」の実現・実践に向けて、心の拠り処となる「学是（基本理念）」が必要となり、全学的な議論を経て、新たに学是「具眼考究」が制定されました。

ここでその深意を述べれば、「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態把握とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立ち包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。更に卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

本予算もこの学是の実践実現を念頭に置いて編成作業を進めたところです。

Ⅱ 予算編成方針

令和4年度予算は、次の編成方針に基づき編成作業を行いました。

1 基本方針

令和2年の始まりとともに世界中で感染拡大し猛威をふるう新型コロナウイルス感染症ですが、日本の状況は令和3年10月に緊急事態宣言の解除を迎えるに至っております。社会生活のあらゆる場面で感染への対応が求められ続けてきましたが、今後は新型コロナワクチンの広範な接種、更には治療薬の開発が期待されているところです。しかしながら、その時期を明確に見通すことは非常に難しく、中長期的な影響についてもいまだ不透明な状況です。

このようなコロナ禍の中で、新病院開院（平成26年5月）から7年目を迎えた令和2年度の医療収入決算額は、令和元年度の374億円強を僅かに下回る366億円強（対前年比2.1%減）を計上し、事業活動収支差は13.9億円強のプラスとすることができました。新型コロナウイルス感染の波が繰り返し訪れる令和3年度ですが、病院の指標はコロナ前の水準に戻りつつあります。決して油断することなく、新型コロナウイルス感染症と戦いながら、引き続き教育・研究・診療の3本の柱を続けていかなければなりません。

令和元年度に策定した「愛知医科大学中期計画」（令和元年度～令和5年度）が4年目を

迎えます。この計画では、多くの課題が示され、中には困難な取り組みもありますが、計画の後半に向けて結果を出すべく具体的な行動が求められる段階となりました。この取り組みの一環として目に見える形で実現したプロジェクトの一つが、経営戦略推進本部主導のもと進められたメディカルセンターの設置です。令和3年4月の分院開設は、本学の建学の精神に則るものであり、メディカルセンターの機能が地域の拠点となり、また教育病院として活用され、財政基盤の拡充を通じて本学の発展に資すること、そしてそのためには一日でも早くメディカルセンターを当初計画の軌道に乗せることが求められます。

安全・安心のためにも新型コロナウイルス感染症による難局から早期に脱し、愛知医科大学がさらに機能的で魅力ある大学として発展し続けるためには、職員一人一人がニーズを的確に把握することはもとより、社会環境の変化に即応した効率的・効果的な財政運営に一層努める必要があります。従って、施策全般にわたり緊急度・重要度などの観点から再検証し取捨選択を行うなど、将来にわたり健全で強固な財政基盤を堅持していかなければなりません。

このような状況を踏まえ令和4年度予算編成は、全体収入の8割を占める医療収入について診療報酬改定が予定されており収入見通が難しいこと、また、引き続き新型コロナウイルス対策も行っていく必要があることから、事業の優先順位付けを行い、実施時期の見直しや事業の廃止、縮小など事務事業の抜本的な見直しを行うことで、活力を持続できる財政運営を確保することとします。

2 重点事業

令和4年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし、事業活動収支予算ベースでは、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めることとし、定量的な成果が見込める事業を優先します。

1 教育機関としての成果が期待できる事業	6 私立大学等改革総合支援事業対策
2 研究支援体制の強化に係る事業	7 創立50周年記念事業
3 病院の機能活性化推進事業	8 イノベーションプロジェクト事業
4 医療収入・薬品材料費・診療材料費	9 大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事
5 メディカルクリニックに関する事業	

従来から人員増要求はすべて重点事業として取り扱っております。近年、医療収入増を見込んだ定数増要求について、期待された収入増が無く、結果として処遇改善としかならなかった事例が散見されます。令和4年度の予算編成では、増員要求の審議をより慎重に行い、各部署ごとの配置人員の最適化を優先することとします。

Ⅲ 事業計画の概況

1 教育について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、Z o o m等のW e b会議ソフトを使った講義、研修会及びオンラインによる学外との双方向授業等が進み、学外との回線が圧迫される状況となりました。既にインターネットを中心としたさまざまなI C Tサービスも提供されているなど、今後の需要も見込まれるため、ネットワークの回線速度を1 Gbps から10Gbps に増強することで、速度の増加と安定化を図ります。併せて1号館5階のマルチメディア教室のA V装置一式を高解像度化のビデオプロジェクタやモニターに更新することで、円滑な授業運営を支援し学生教育環境の維持向上を図ります。

医学部では、4～6学年次における臨床実習（クリニカル・クラークシップA／B）において、教員による学生評価や学生の経験医行為記録等について学内独自のシステムで運用されていますが、独自システムならではの保守やデータのバックアップ体制が万全ではないなど現状の運用が抱える問題点を改善し、学生・教職員の利便性の向上を図るため臨床実習支援システムを導入します。これにより学生、教員が実習記録や実習評価を随時確認できることで実習内容の改善が見込まれます。これまで、各診療科の監督下で実習を実施し、教務部へ成績を提出するまでに留まっていたが、実習期間中の実習記録や学生・診療科間の相互の評価を適宜確認しながら実習を実施することが可能となり、将来的なC C E P O C導入まで見越した先進的な取り組みです。

また、令和2年度に臨床実習後O S C Eが共用試験化され、令和5年度には臨床実習前O S C Eが公的化されることで共用試験O S C Eの提示課題が多様化されることが想定されるようになりました。特に臨床実習前O S C Eでは公的化により出題課題数を12課題モデルとして既に通知されており、公的化に向けた全国トライアルが令和4年度には実施されるため、そのトレーニングと実施に必要とされる呼吸音聴診シミュレータを始めとしたシミュレータ機器計6台を整備します。これにより、どのような課題が提示されても対応できるようになります。この整備は医学部のみならず看護学部、看護部、若手医師の教育にも利用できることから、診療能力の向上にも期待できます。

医師国家試験対策として、現在学内で活用している医師国家試験対策システムに蓄積された問題データを活用し、W e b上で学生に試験を実施できる環境を構築します。これにより、学生はブラウザで操作が可能となり、自宅からでも過去問題（国試、総合試験）を織り交ぜた試験で、問題も学生ごとに異なる順序で出題されたもので試験を受けることが可能となり、さらに受験後には自分の試験結果が即時に画面で確認可能になるなど時間と場所に縛られない試験が何回でも可能となります。この結果は、学生自身の進捗確認とともに、受験状況や成績を教員と共有し、学生状況の把握、及び学生面談時の参考として活用していきます。

看護学部においても、2か年計画で整備している各講義室の視聴覚機器の更新を今年度も実施し、映像や音声端子が時代遅れとなっていたものを最新のものに对应することや、ワイドスクリーン及び高解像度化やモニターの追加などの学習環境の整備を行います。

令和4年度はコロナ禍に対応した学習環境の整備と国家試験対策の強化を中心に推し進め、教育レベルの質的向上に務める施策に積極的に投資することとしました。

2 研究について

研究創出支援センターでは、分野横断的に学内研究者を支援することに取り組んでおり、研究技術の指導はもとより科学研究費助成事業の申請・採択件数の増強を目指す科研費申請者指導、各種の研究に係る論文指導等、研究環境の基盤づくりの一環として同センターに設置されたバイオバンク部門で病院を受診した患者から採取した生体試料や健康診断時の生体試料の収集を行っています。この研究創出支援センターの中心的な業務を担う教員について、知識・技術を継承しながらセンターの発展に寄与できる人材を確保し、令和4年4月から採用します。また、バイオバンクで必要となる自動セルカウンターや分光光度計を追加整備します。これらの取り組みによって、学内研究者への基盤的な研究の支援体制とバイオバンクの強化を図ります。また、科研費不採択者（A評価）に対する研究費支援事業や、学内で公的研究費等の研究代表者を経験し、研究成果を上げている研究者を代表とする新たな研究ユニットを形成したグループに対して研究費支援を行うなどの取り組みも引き続き実施します。この研究ユニットは条件として基礎系研究者と臨床系研究者を複数参画させることや、若手研究者も複数名参画させることとしており、あらたな研究成果を生み出し、若手研究者の育成と研究活性化の雰囲気醸成します。

3 診療について

本院では、平成26年に新病院として新たに整備した医療機器やシステムが更新時期を迎える時期となりました。放射線機器を中心に計画的に更新計画を立案し、順次整備していきますが、今年度はCT装置や生化学自動分析機、血液凝固機器などの中央臨床検査部における検査機器を更新します。

また、麻酔導入リカバリ室の生体情報モニタリング、iPadを使った生体情報モニタリングシステムや、RSS（院内急変迅速対応システム）管理室を充実させ、スポットチェックモニターやパルスオキシメーターを院内各所に普及、充実させることで院内全ての患者のバイタルサイン異常がGICUでモニター出来るようになるなど、大学病院に求められる高い医療安全、危機管理の維持を構築します。

麻酔科医の減少に伴って手術件数が減少することに歯止めをかけ、周術期医療の安全を維持するために麻酔科医への待遇補償、麻酔科医の外部委託、診療科医師の協力体制の構築や、麻酔科医が行う手術室の機器点検や麻酔導入医薬品準備業務の負担減を目的とする臨床工学技士及び薬剤師の追加を行い、手術件数の維持を図ります。

4 メディカルセンター

開院2年目を迎えるメディカルセンターは、引き続きリニューアルを行います。建物関係では、南館は18年が経過し、床・壁の傷みが目立つことから内装のリニューアルを行うとともに、入り口の車寄せスペースの拡張と身障者用駐車場スペースにも屋根を増設し、患者の利便性向上を図ります。空調機器（ガスマルチエアコン）の経年劣化による不調が目立つことから更新を行っており、今年度は2年目として1階と2階エアコン室内機100台以上を更新し、省エネも同時に実現します。

病院機能の整備では、ベッド数不足のため一部患者の透析をお断りする事態となっている現状を解消し、感染患者対応用の個室が無い状態を改善するため透析エリアを改修して収容ベッドを増やし、同時に感染患者対応個室を設置します。さらにソフトウェア面では本院と同じ透析システムを導入し、システムの的に管理できるようになります。透析システム以外にも、検査システム、放射線、生理検査、内視鏡、文書管理システムなどのシステム整備を行います。これにより電子カルテと連携させたり、紙での原本管理の解消などの業務改善、効率化を図り、メディカルセンターの機能向上を目指し、大学病院の分院として遜色ない仕組みを整えます。

Ⅳ 令和4年度重点事業一覧

予算編成方針で示した重点事業の目的に合致し、定量的な成果が見込めるものとして予算化した主な事業及び予算額は、以下のとおりです。

1 教育・研究に関する重点事業	予算額
(1) 教育環境の整備 - 老朽化のため以下の機材及びシステムを更新する。 1号館5階のマルチメディアA・B教室AV装置 - 大学本館講義室のタッチパネル及びアンプ - バーチャルスライド教育システム - 救命処置トレーニングシミュレータ - 学生ホール什器 - 医師国家試験対策システムを活用した演習システム環境を構築することにより、WEBで学生に試験を実施できる体制を構築する。 - 臨床実習支援システム(F.C.E.S.S)を導入することにより、現行の運用が抱える問題点等を改善し、学生及び教職員の利便性向上を図る。 - 臨床実習前OSCEが公的化されることに向け、共用試験使用シミュレータを購入し、準備を行う。	77,773千円
(2) 特定資産を財源とする事業 - 医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。 - 看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。 - 外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。	12,725千円
(3) 研究環境の整備 - 図書館の電子リソースの学外アクセスに関する環境整備をすることによりネットワーク接続における安全性の確保及び利用者の利便性向上を図る。 - 老朽化のため以下の装置を更新する。 - 病理組織標本自動固定包埋装置 - 密閉式自動固定包埋装置 - レーザーキャプチャーによる組織内機能分子のピンポイント解析システムを構築することにより、医学研究の質的環境を整備する。 - 研究創出支援センターの研究機器を更新整備することにより研究者の利用利便性向上を図る。	117,349千円
(4) 研究活動の活性化 - 科研費管理に特化したシステムを導入することで管理をより円滑に行う。 - 私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先	57,795千円

制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。 研究創出支援センター機能の発展とバイオバンクの体制をより強固なものとするため、研究創出支援センターの教員を増員する。	
(5) 教員評価制度 処遇反映制度を導入することで、教員のモチベーション向上を狙う。	1,200千円
(6) その他 運動療育センターにボディコンポジションアナライザーを導入することにより、会員のメディカルチェックを定期的に行う。また、そのデータを研究に活かしていく。	3,135千円
2 本院の医療に関する重点事業	予算額
(1) 教員・スタッフの増員 - 病理診断科による一括管理により、効率的にホルマリン固定を行う体制を確立するため、助教1名を増員する。 - 専従・専任要件や地域連携、退院支援・相談業務等に対応するため、社会福祉士及び精神保健福祉士を1名増員する。 - 高度医療機器への対応としてICU部門と危機管理部門にそれぞれ1名ずつ臨床工学技士を増員する。 - リハビリテーションニーズ増大と多様化に対応するため理学療法士を4名増員する。 - メディカルセンターへの人員配置への対応のため、臨床工学技士・管理栄養士を2名ずつ増員する。 - アイセンター（仮称）への人員配置への対応のため、視能訓練士を1名増員する。	61,102千円
(2) 手術体制支援対策 - 手術における麻酔体制の安定確保を図るため、非常勤医師の活用に加え派遣麻酔医の受け入れなど、麻酔科医の負担軽減策を講じて麻酔科の体制強化を推進する。 - 手術の場における役割拡大により、麻酔科医の負担軽減に資するNP（診療看護師）の処遇改善及び体制強化を図る。 - 手術室の機器点検は臨床工学技士の業務であるが、麻酔科医が行っている場合も多いため、臨床工学技士を増員し手術件数確保を図る。 - 麻酔科医が行っている麻酔導入医薬品準備業務の一部を薬剤師へタスクシフトするため、薬剤師を増員する。	393,784千円

(3) 診療活性化対策 - 新たに就任した教授の紹介動画やパンフレットを作成し、地域の医療機関や患者へ広く広報することにより、患者数の増加を図る。 - 病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし、各種項目を裁量評価することで、成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。	77,260千円
(4) 診療用機器の整備 老朽化のため以下の装置を更新する。 X線C T診断装置（2台） 一般撮影ポータブル撮影システム 手術室手術灯	482,520千円
(5) 病院運営管理の強化 - 勤務医の働き方改革を推進し、質の高い医療を提供するため医師事務作業補助者を増員する。 - 看護師の働き方改革を推進するため、看護補助者を増員し、看護業務のタスクシフト・タスクシェアリングを進める。 - i P a dによる生体情報モニタリングができるV i T r a cを導入することで異常アラームを即座にキャッチし、患者安全向上を図る。 - B C P（業務継続計画）における災害対応事業として、地震への備えのため病棟の棚や家具の固定を行う。また、新型コロナ感染防止で使用するようになった災害用簡易トイレの補充を行う。 - R R S（院内急変迅速対応システム）を院内で浸透させるために、スポットチェックモニターをさらに充実させる。 - 医療情報の保守契約管理システムを導入することにより、論理的・客観的なデータを用いた管理を行う。	149,869千円
(6) 病院システム更新関連 - 老朽化のため以下の装置を更新する。 機器試薬トータル販売システム機器 麻酔導入リカバリ室生体情報モニタリングシステム 中央臨床検査部の生理検査情報システム N A V I T（患者案内端末）システム - 令和3年に導入した高分解能C Tの高精細画像を活用するため、保存容量が確保できるサーバを追加し、利便性の向上を図る。 - 令和3年に更新した放射線部門システムについて、不具合が発生しているため、カスタマイズを行い、検査・治療の安全性を高める。	708,814千円

輸血システムについて、二次元バーコードで発注管理できるようシステム改修を行い、また他部署の検査技師でも夜間の業務に支障がないよう操作性を向上させて改修を行う。	
(7) 継続事業 - 病院広報促進事業 地域住民や連携病院、地域開業医への広報促進を図る。アピールポイントを積極的に対外発信することで、「救急医療といえば、愛知医大」というブランドイメージアップに努める。 - 認定看護師教育課程等受講に係る奨学金制度 キャリアアップを目指す看護師のための奨学金制度をさらに充実させる。 - 先進医療推進事業 病院の基本方針のひとつである「先進的医療技術の開発・導入・実践の推進」に従い、先進医療が認められるための実績づくりに必要な経費を予算措置し、確保する。	79,999千円
3 メディカルセンターの医療に関する重点事業	予算額
(1) 建物修繕 - 耳鼻咽喉科の診察室と泌尿器科の診察室及び膀胱鏡室の整備を行う。 耳鼻咽喉科については新たに開設する外来としての整備。 - 老朽化のため以下の改修工事を行う。 南館1階、2階空調設備更新工事 南館エントランスリニューアル工事 - 車寄せ・身障者駐車場屋根拡張工事を行うことにより患者の利便性向上を図る。 - 検査室のスペースが非常に狭いため、検査室等ゾーニング変更工事を行う。 - ベッド不足により一部患者の透析を断っている状態のため、透析センター改修工事を行い、透析患者増加を見込む。	499,345千円
(2) 病院運営管理の強化 - 携帯端末ポケットチャートを導入することで、ベッドサイドでの情報閲覧、バイタル入力、点滴の3点認証システムを実現し、医療事故のリスク軽減や算定漏れ防止、また医事課職員の残業軽減を図る。 - 現行の再来受付機は10年以上経過しているため、更新を行う。 - 現行の自動精算機は故障が多いため買い替えを行う。また、ポスレジ・会計番号表示の導入も併せて行う。	58,165千円

(3) 病院システム更新関連 ・ 検査システムについて、WindowsOSのバージョンが古いため更新する。 ・ 透析システムが未導入のため、本院と同じシステムを導入する ・ 生理検査、内視鏡、文書管理はシステム未導入のため、システム導入を行う。また、将来的に中央受付を設置することを想定し、すでにシステムを導入している放射線も含めて一本化して導入を行う。	177,302千円
4 アイセンター（仮称）の医療に関する重点事業	予算額
・ 昭和58年に開院したメディカルクリニックをアイセンター（仮称）に再編する事業。総合的診療体制を見直し、新たにメニコン社との産学連携寄附講座（近視推進抑制）と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点とする。	531,109千円
5 法人・大学運営に関する重点事業	予算額
(1) 創立50周年記念事業 ・ 創立50周年事業 本学は令和4年度をもって創立50周年を迎えるため、「創立50周年記念事業実行委員会」を設置し、各種記念事業を実施する。 ・ 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金 令和4年度に創立50周年を迎えるにあたり記念事業に係る募金を卒業生、在校生父兄、取引業者等に行う。 ・ スターバックスの誘致事業 令和4年度のオープンを予定。 ・ 「レストランオレンジ」改修事業 大学本館竣工と同時に開業し、老朽化が進んでいるため、全面リニューアルを行う。 ・ 医心館1階多目的ホールの増改築及び2階セミナー室の増設工事 医心館2階の一面にある名城大学サテライト室を1階の多目的ホールへ移設し、本学学生の利用空間に限定して学習環境の向上を図るとともに、セミナー室4部屋を増設する。	598,975千円
(2) 建物修繕 ・ 停電時に中央棟へ送電する非常用発電機が更新推奨時期（稼働後15～18年）を迎えるため、更新と部品交換を行い、機能回復と設備の信頼性を持続させる。 ・ 中央棟第1無停電電源装置（2系）において、点検の結果、蓄電池の劣化が認められたため、更新する。本装置は一瞬の停電が生命等への影響を与えかねないオペ、集中治療、救命、電カル等の系統へ電力を送電す	374,950千円

るもの。 ・ D棟南側病室系統排水配管は設置より33年が経過し、著しく腐食が進んでいる。更新工事を行うことにより、コロナ病棟稼働時に、感染排水の漏水事故による感染リスクからスタッフを守る。 ・ 検体検査室のエアコンは一般系統の電源供給のため、停電時には運転ができない状態で、停電時に検査機器が温度上昇すると機器停止に陥り、検査ができない恐れがあるため空調設備のバックアップ機器設置工事を行う。 ・ 設置から32年経過した5号館（総合実験研究棟）の空調設備を更新し、安定した動物飼育環境を確保し、省エネ効果も得る。 ・ 構内に張り巡らされている高圧電力ケーブルのうち、地中に埋設され耐用年数20年を超過した、交換必要優先度が高い4回線を更新する。	
(3) その他 ・ 経営改革・イノベーション推進事業 理事長直轄の組織である経営戦略推進本部において、1. 地域医療連携、2. 救急体制の改革、3. 働き方改革、4. 財政基盤改革、5. 中期計画・中期目標、6. その他に取り組む。 ・ 情報通信システム更新 5年経過する現システムを更新し、利便性及び安全性の向上を図る。 ①ネットワーク環境の整備、②パソコン環境の整備、 ③事業継続計画（BCP）の対応、④リモート保守、 ⑤サーバ環境の整備 ・ 公式ホームページのサーバ入替及びデザインリニューアル 4台のサーバが保守契約期間満了となるため新たに入れ替える。また、サーバの入替にあわせて、スマホサイトに重点を置いたデザインリニューアルを行う。 ・ 駐車場ゲート職員証読取回線更新工事 職員及び学生等の駐車場は、管理端末で利用者其々の権限を設定し、学内駐車場ゲートにPHS回線を介して情報送信しているが、PHS通信回線サービスが令和5年3月を以て終了するため、ソフトバンクの通信回線に更新する。 ・ 平成25年に稼働を開始した電話交換機が、メーカーの定める安定稼働寿命8年を経過しているため、各消耗部品と機器の更新を実施する。 ・ キャンパスエリア駐車場エリア舗装等工事 愛知・豊川用水振興協会との間で締結した協定書で、第2駐車場路面の不具合は本学が修繕を行う取決めとなっており、同協会から修繕依頼を受けているため、工事を行う。	1, 083, 562千円

V 令和4年度予算額

事業活動収支予算では、収入53,990百万円（前年度比0.14%増）、支出53,741百万円（前年度比0.05%増）となり、収支差は249百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,967百万円、寄付金収入706百万円、補助金収入2,424百万円、医療収入43,897百万円など資金収入合計56,126百万円となっています。

一方、人件費支出21,231百万円、教育研究費支出26,669百万円、管理経費支出1,006百万円、施設関係支出1,431百万円、設備関係支出3,464百万円、借入金等返済支出1,342百万円など資金支出合計55,768百万円となっています。

1

医療・研究
施設の整備

創立50周年に向け更なる発展を目指して

教育・研究・診療の 基盤整備事業

メディカルセンター開設〈2021年4月〉

令和3年4月に(旧)北斗病院より事業継承し、「愛知医科大学メディカルセンター」を開院しました。2次救急患者さんから慢性期に至るまでの幅広い患者さんを対象に、大学分院ならではの質の高い医療の提供を通して地域を守り共に生きる中核病院として、患者本位の医療を行います。今後は、若い医師らを育てる「教育病院」の機能も充実させていく予定です。



連携大学院方式の導入〈2021年4月〉

(一社)日本造血細胞移植データセンター移転・開設〈2022年1月〉

この度、連携大学院方式を導入し、本学初の試みとして愛知医科大学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)との間における連携・協力に関する協定書を締結し、本学の教育・研究の進展及び充実を図ることを目的として、2021年4月より「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置しました。そして、(一社)日本造血細胞移植データセンターを本学(2号館(研究棟))に2022年1月、移設・開設いたしました。



メディカルクリニック・ アイセンター(仮称)開設

開設から38年を迎えたメディカルクリニックは、総合的な診療体制等を抜本的に見直し、メニコン社との産学連携寄附講座(近視進行抑制)と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として生まれ変わります。



2

学生の学修環境
および
福利厚生の実

医心館セミナー室拡充

医心館は、学修用施設として利用されており、特に国家試験を控えた学生のグループ学習に必要なセミナー室が設置されています。今後さらなる学修環境の向上を目的にセミナー室の拡充を行います。



3

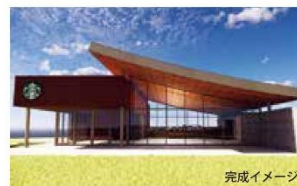
これからの
医療ニーズに対応

4

50周年を契機に
検討をスタート

スターバックスの誘致

人気の高いスターバックスが本学にオープンします。コンセプトは人と人、人と病院、人と自然をつなぐ。立石池やその周辺に広がる四季折々の風景を眺めながら、学生や教職員はもちろんのこと地域住民の方々の交流や憩いの場として幅広く利用いただくことを目指しています。



完成イメージ

学生レストラン「オレンジ」の改修

ガラス張りの明るく開放的な雰囲気学生レストラン「オレンジ」。これまでは、学生の食事会場として、また学生同士の憩いの場として利用されてきましたが、食事以外の時間は自習の場として利用できるよう大規模な改修工事を進めます。



リハビリテーション医療の充実

超高齢社会におけるリハビリテーション医療の社会的ニーズにお応えするため、2021年7月にリハビリテーション医学講座を開設し、生活機能と障害の診断、治療技術を基礎から最新技術に至るまで経験・習得するための教育に取り組んでいます。



がん医療の推進

2019年10月に「がんセンター」を設置。院内の多数のがん診療部門を統括する横断的な組織として、診療科の枠を超えた多職種での連携業務をサポートするなど、がん患者受入増計画を推進していきます。



看護学研究科 博士課程設置構想

博士課程(Phdコース及びDNPコース: Doctor of Nursing Practice)を設置し、看護学分野の研究者や高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本でも数少ないDNPの養成に挑むことで、我が国における高度看護実践のトップランナーを目指します。



先進医療研究棟構想

「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」などの5つの目標を掲げ、その実現に向けたプロジェクトを順次発足させていきます。



イメージ